

令和7年度 京都市立市原野小学校(KIS)

全国学力・学習状況調査の結果について



4月18日に6年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が、文部科学省より公表されました。本調査は、国語科・算数科のテストと共に、家庭での過ごし方や学習時間を問う意識調査も実施しています。今年度については、理科のテストも実施しています。本校の6年生の結果についてお知らせします。

総合結果(国語科・算数科・理科・質問紙)

本校の平均点は国語科、算数科、理科、いずれも全国平均を上回っています。どの教科も低学年からの基礎基本の積み重ねが重要であることが結果として現れました。また、質問紙からは日々の生活から幸せを感じられていることがわかりました。以下、分析した内容を掲載します。

国語科

平均点は全国平均をやや上回っています。漢字を書いたり、正しい言葉に直したりすることは特に良好な結果となりました。しかし、複数の情報から読み取ったり、考えたりする内容については課題が見られました。

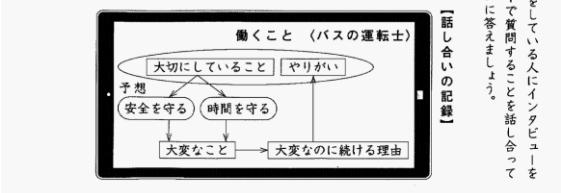
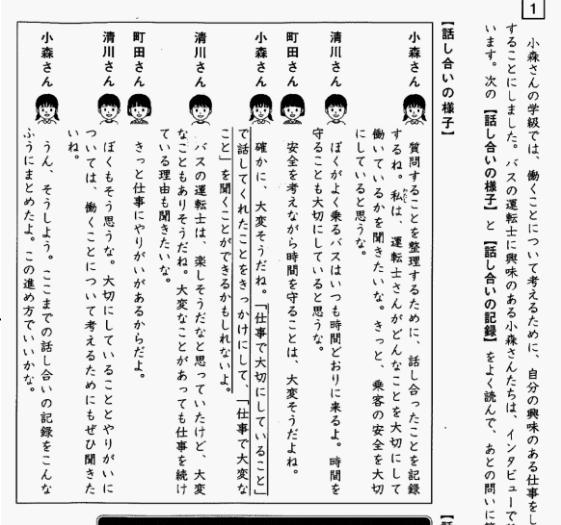
○複数の内容を結びつけて読む

問題 小森さんは、インタビューをどのように進めようと考えて——部の発言をしましたか。

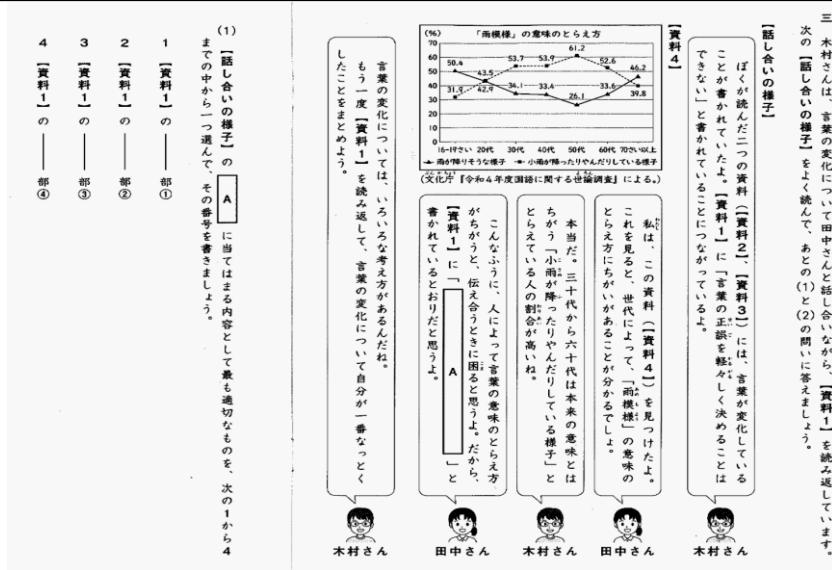
- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、(正答率47.6%)
聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、
相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
- 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、
相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
- 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、
聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

この問題では、「仕事で大切にしていること」と「仕事で大変なこと」の複数の質問をしますが、「話してくれたことをきっかけに」と言っているように、双方を関連づけながら聞きたいことを相手から引き出そうとする質問となっています。

インタビューをする学習は、低学年から様々な教科で取り組んでいます。関連づけた質問をしたり、相手の回答から質問をつないだり変えたりして、聞きたいことを相手から引き出すことが大切です。今後もインタビューを通した学習の際には、相手の回答を意識して取り組めるようにしていきます。



問題 【話し合いの内容】の A に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までのなかから一つ選んで、その番号を書きましょう。(正答率47.6%)



この問題では、4つの資料があり、問題のポイントとなって
いる【資料4】には図表もあります。必要な情報を見つけるた
めには、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分
と結びつくのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする
ことが重要です。必要な情報かどうかを確かめたり、情報と情報がどのような関係にあるのかを考え
たりしながら読むことができるよう、引き続き学習の場面で問いかけていきます。

算数科

平均点は全国平均をやや上回っています。計算や文章問題の理解も概ねできており、算数に関しては複数の資料も読み分けて答えを求めることができました。

一方で、分数の概念が十分に理解できていないという課題が見られました。

○分数の概念を明確にとらえる。

問題 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、もとにする数を同じ数にする時、

その数は何になりますか、その数を書きましょう。また、
 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や葉を使って書きましょう。(正答率 21.4%)

その前の問題で、0.4+0.05におけるもとのする数を求める問題があり、これは正答率83.3%とよくできて

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的であると考えられていました言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっていたり、使い方が変わっていたりする場合は少なくありません。ですから、意味や使い方に搖れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的ともいえるでしょう。(1)この本を読むとお気づきになると思いますが、文化庁国語調査では、言葉の意味について「正しい」「誤り」といった判断をせず、代わりに、(2)本来の意味「本来とは違う使い方」といった言い方にどどめています。言葉の「正誤」を略々しく決めることはできないと考えるからとはいいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。(3)コミュニケーションの使い違いを放置しておくわけにもいきません。

④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

（文化庁国語課「文化庁国語課の勧進いしやすい日本語」による。）

(2) ひととさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。

みおり $\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、 $2 + 1$ を使って
考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。

 ひろど $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができ
ます。

もとにする数を同じ数にすると、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

いました。また、この問題の例として $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ におけるもとにする数が $\frac{1}{5}$ であると説明がありま
す。そこから、通分をして分母をそろえた時の分数がもとにする数 ($\frac{1}{12}$) となります。通分をすることまでは理解しているのですが、「もとにする数」という言葉が何を指し示しているかがわからず、「 $\frac{1}{12}$ が9個分・8個分」という解答ができなかったように思われます。

問題 次の数直線のア・イのメモリが表す数を分数で書きましょう。(正答率 19.0%)

分数は「1を等しく分けたものがいくつ分あるか」ということが基本です。したがって、この数直線ではアは $\frac{1}{3}$ となります。しかし、数直線を見て、6つに分けられていると思い、アを $\frac{1}{6}$ 、イを $\frac{5}{6}$ という誤答が見られました。

前出の問題同様「何を基本単位として捉えているか」という分数の概念が明確にとらえられていないようです。一方で、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ の計算問題 ($\frac{5}{6}$) では、高い正答率となっていました。計算のスキルは身についていますが、分数がどのような数であるかを知識として理解することが大切です。

理科

平均点は全国平均を上回っています。どの教科でも同様ですが、学習はこれまでに積み上げてきた学習の上に成り立ちます。基本となる知識は6年生になる頃には膨大なものとなります。内容を整理しつつ、必要に応じて活用する力が大切となります。

○確かな知識を身につける

問題 アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。(正答率 7.1%)

いずれも金属であるため、電気を通すのですが、いずれかの解答に「電気を通さない」を選んだ児童が多くいました。「電気で明かりをつけよう」「じしゃくのふしき」とも3年生の学習内容ではありますが、どの学年でも頻出される基礎知識です。金属全般が電気を通すこと、鉄だけが磁石に引きつけられることをそれぞれの性質として確実に理解することが大切です。

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

○日々の授業で「学習問題」を設定し、解決する学習にする。

問題 てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つかったと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。
(正答率33.3%)

水・空気・適温以外の日光、肥料がない条件であるため、日光または肥料を選ぶことはできています。しかし新たな【問題】を見つけるということは、その「条件」だけでなく、疑問を示す趣旨で記述する必要があります。

実験の際に【問題】【予想】【方法】

【条件】といった過程があります。【問題】の欄には「ヘチマの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか」と書いてあり、このような形式で【問題】

を書くことが求められています。多くの教科で、児童が疑問に感じたことを【学習問題】という言葉で設定して学習活動を進めています。自分で疑問に思ったことを明文化し、その解決に向けた学習を進めることが大切です。また、教職員も「問題解決型学習」の授業展開をさらに取り組む必要があると感じています。

児童質問紙

本校は、朝食、睡眠等の「健康に生活しようとすること」について、肯定的な回答が全国平均よりも高い傾向でした。また、PC、タブレットで文章作成、情報の収集・整理、内容の発信・共有、個別最適な活用等の「ICT機器の活用」も、肯定的な回答が全国平均よりも高い傾向でした。将来の夢や目標、地域や社会への貢献などの「将来展望」も高い傾向となり、未来に向かって走り出している児童の姿が感じられました。

そして、「学校に行くのは楽しいですか」という質問については、全員が肯定的な回答となりました。「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という質問でも、ほとんどが肯定的な回答となりました。今年度、「『楽しい』KISをみんなの力で」を合言葉に取り組んでいます。最高学年の6年生が、楽しい学校づくりを先導していたことがアンケート結果からも見られました。

一方で、「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いませんか」について、肯定的な回答が全国平均よりも低い傾向にありました。また「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問においても、若干低い傾向がありました。自分のよいところを自分で気づき、それに自信をもつことはなかなか難しいことです。周りの大人が子ども一人一人の良さに気づき、積極的に声をかけることで自信につながっていきます。同時に信頼関係も増し、困ったときに相談できる人として、さらに子どもをよりよい方向に導けるようになります。学校でも、子どもの良さを認め、さらに高めていけるようにしていきます。

たかひろさんたちは、インゲンマメの発芽の条件について調べたことを思い出し、次のように、ヘチマの発芽について調べることにしました。

【問題】ヘチマの種子は、どのような条件で発芽するのだろうか。	
【予想】インゲンマメの種子と同じように、水、空気、適した温度（室温）といった条件で発芽すると思う。	
【方法①】水が必要か調べる。	【条件】 ・水あり ・空気あり（種子が空気にふれている） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし
【方法②】空気が必要か調べる。	【条件】 ・水あり ・空気あり（種子が空気にふれている） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし
【方法③】適した温度（室温）が必要か調べる。	【条件】 ・水あり ・空気なし（種子が空気にふれていない） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし

たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、いつも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験	
【条件】	・水あり ・空気あり（種子が空気にふれている） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし
【条件】	・水あり ・空気なし（種子が空気にふれていない） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし
【条件】	・水あり ・空気あり（種子が空気にふれていない） ・温度（室温） ・日光なし（箱をかぶせている） ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるかもしれません。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の（条件）の中から1つ選んで調べてみたい。



(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つかったと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。